
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

南小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

<p>凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）</p> <p>△：H23.06.09 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」 「2 高齢者から子どもまで他世代の交流による活性化」</p> <p>▲：H23.10.19 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前回の議論を受けて～」 「2 ごみ問題と美しい地域づくり」</p> <p>○：H24.05.24 テーマ「みんなでふれあい創出」</p> <p>●：H24.11.12 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」</p> <p>◇：H25.07.18 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」</p> <p>◆：H25.11.11 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」</p> <p>□：H26.05.23 テーマ「防災訓練」「地域の連携」</p> <p>■：H26.10.06 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。 テーマ「①中学生や保護者が防災訓練に参加しやすい方法を考えよう！」（P6掲載） 「②防災体制充実のためにも、幼稚園・保育園と地域の連携を高めるには？」 （P7掲載）</p> <p>◎：市の意見・回答</p> <p>⇒：課題解決に向けた取り組み事例</p>

（※担い手略称 自：自治(町)内会、民：民生委員、子：子ども会）

課題		担い手
防災訓練	<p>①訓練内容</p> <p>◇訓練は地域のきずなづくり。多世代が参加できる訓練にしたい。 →【■①テーマ別会議(P6)に発展】</p> <p>◆災害発生時、防災機器が近くにあるとは限らない。消火器や可搬ポンプを使用しない消火活動や、バケツがない場合に水路からいかに水を運ぶか知恵を絞るバケツリレーなどを行う必要があるのでは。</p> <p>◆時期や内容など、本当に必要なことを確認後、訓練を実施すべき。</p> <p>⇒◇安否確認用紙を使用した訓練や非常食配布などの工夫実施。(玉川)</p> <p>⇒◇今年から中田町南と合同消火訓練を開始した。(中田町北)</p> <p>⇒◆一次避難所を拠点としたシミュレーション実施。(富田町)</p> <p>⇒◆AED 訓練を通じて救命意識の向上を図った。(南本町高台)</p> <p>◆暑さや中学生参加も考慮し、「12 月地域防災の日」の訓練開催を考えていきたい。(青木・6 町内合同訓練)</p> <p>⇒◆6 町内合同防災訓練を実施。粉消火器や避難所見学等を実施。</p> <p>◇災害時の初期活動(自助・救助・安否確認など)が大前提。技術よりも行動が大事だと認識してほしい。(消防団)</p> <p>◆役員が一年交替の町内が多い。訓練内容を申し送りするような形にすると新年度の役員が楽になるのではないかと。</p> <p>◎携帯で AED 設置場所、取り扱い方法が調べられる。活用してほしい。</p> <p>◎「黄色いハンカチ」による安否確認も参考にしてほしい。</p> <p>□避難所をただ見学するだけでなく、子どもから大人まで色々な役割をもち、本当に避難したような宿泊訓練ができれば、中学生も楽しく参加できると思う。</p> <p>□面白いと思える訓練が、魅力的な訓練になるのではないかと。</p>	<p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p>

	課題	担い手
②参加促進のための工夫	<p>◇一番の課題はマンネリ化と参加者が限られていること。</p> <p>◎県の地震防災センターに住民を連れて行ってはどうか。</p> <p>●◇お互い顔見知りになるよう積極的に顔を出していくことが重要。</p> <p>●皆が知らないことを上手く発信できるような訓練を行いたい。</p> <p>●子ども～お年寄りまで世代交流がうまくできる方法を考えたい</p> <p>□炊き出しなど、被災時に実際に行うことを小さい頃から体験していけば、大人になっても地域皆で行う訓練に参加すると思う。</p> <p>⇒◇防災会役員に学生や老人会も入り色々なアイデアを出しあい、楽しみながら訓練を実施。住民の半数以上の参加がある。(富田町)</p> <p>⇒◆気軽に参加しやすいようイベント時に15分程度の訓練を必ず実施。</p>	<p>自 校区全体</p> <p>自</p>
③防災体制の強化	<p>●道も壊滅するような状況を想定し、訓練を行なってほしい。(小学校)</p> <p>●各町内会でAED設置場所を把握しておいてほしい。</p> <p>●◇小学校にも子ども1人1食分の非常食を準備したい。(南小)</p> <p>●避難所の使い方について、町内ごとでルールを決めるのではなく、避難所単位で連携して理解し合う必要がある。</p> <p>◆災害時、マンションエントランスを使用させてもらう可能性もある。周りの町内からマンションへ連携を呼びかけていくことも必要。</p> <p>⇒●町内の人を集めHUG(避難所運営訓練)実施。(南田町)</p> <p>⇒◇防災役員が救命知識、機械の使用方法を勉強習得。(南田町)</p> <p>⇒◇住民の防災勉強会「防災フェスタ」を実施。(ウイステリア三島青木)</p> <p>⇒◇職員が防災教育の大切さを学ぶ取り組み実施。(南幼稚園)</p>	<p>自 小 校区全体</p> <p>自 自 自 幼</p>
④要援護者の支援	<p>△要援護者のうち、歩行困難者を避難所まで連れてくる方法が課題。</p> <p>●要援護者の支援方法について今後話し合っていきたい。(中田町北)</p> <p>●要援護者も避難しやすい道路の整備が必要。</p> <p>◇マンションの方は参加がないので非常に困る。把握・支援が困難。</p> <p>◇高齢者の見守り等を通じて、各地区にどんな方がいるのか把握してほしい。(民生委員)</p> <p>◇◆要援護者を誰がどう救助するかまで話し合っしてほしい。</p> <p>◆要援護者の居住場所の確認やマップ作成をお願いしたい。</p> <p>◆高齢者も災害時、頼りになるのは自分だと覚悟しておく必要がある。</p> <p>□これから要援護者をどう支援したらいいかわからない。</p> <p>□支援者がいない場合に備え、その次にカバーできる人も決めたいが、非常に難しい。やはりご近所が皆で助けあう気持ちを持ってほしい。</p> <p>□近所とつながりのない世帯について、これからどうしたらいいか地域で話し合っついていかなければならない問題だと思う。</p> <p>□要援護者リストを作成する際、「どこの施設に通っているか」「その施設に災害時の対応が相談可能かどうか」などの情報を名簿に書き加えるといいの。</p>	<p>自 市</p> <p>自・民</p> <p>自・民 自・民</p> <p>校区全体</p> <p>市</p>

	課題	担い手
地域の連携	<p>⑤子どもの参加</p> <p>●◇褒められることで、子どもの参加意欲がわく。 ⇒●南小の訓練カードを復活させた。 ◇□中学生に訓練企画案を出させてはどうか。 ◆町内でも中高生の指導、消火器やポンプの訓練をさせてほしい。 ●◇◆防災訓練が市内一斉同日開催ならば、中学生全員が参加できるのではないか。検討してほしい。(南中) ◆中学生の参加が園児・小学生の参加につながる。できれば南中と日程を揃えてほしい。(南小) □中学生に興味を持たせるのが一番。保護者も一緒に参加するといい。 □根本はどう子どもたちの訓練参加意識を高めるか。学校や家庭がバックアップしていくべき。 □学校で訓練参加のメリットをはっきりさせてくれると、子ども達も参加するのではないか。</p>	<p>校区全体 自・小 自・中 自・中・高 校区全体 小・中・高</p>
	<p>⑥地域と学校の連携</p> <p>◇幼・小・中の連携、地域の人のつながりを大切にしていきたい。 □最近、中学生が幼・保で職業体験をする学習が行われている。訓練に幼児連れの家族が参加していたら、中学生が幼児の面倒を見るなどお手伝いできる。避難してくる時に、お年寄りと一緒に歩くこともできるのではないか。 ◆園児は色々な地域から来ていて地域の連携は難しい。地区のお年寄り・車椅子利用者などの受け入れを考えていきたい。(のびる幼稚園) ◆防災面で地域と連携できていないことが課題。(青木保育園) →【テーマ別会議②(P7)に発展】 ⇒◇幼・小・中合同引き渡し訓練を実施。(南幼・小・中)</p>	<p>校区全体 中 幼 保 幼・小・中</p>
	<p>①顔の見える関係づくり</p> <p>○学校が率先して挨拶運動を行っていききたい。(南中) △○□退職した学校の先生など、地域に埋もれた人材を活用したい。 ○地域活動を行っている人を講師として学校に招待したい。 ○中学生も地域活動に積極的に参加させていききたい。(南中) ○お年寄りが集まれる場所を作ってほしい。(青木) ◇◆住民のコミュニケーション、きずなづくりが大事。 □町内には色々な才能をもった方がいる。サロン立ち上げにできる範囲で協力してもらえると大きな力になる。(地域包括支援センター) ⇒◇□マンション内できずなづくりの取り組み実施(ボランティアも募り、大人も子どもも参加できる七夕祭り、クリスマス会、ハロウィン仮装でお宅訪問等)。世代を超えた交流が広がった。(ウスティリア三島青木) ⇒□自治会内で高齢者対象に「おしゃべりと歌声の会」や、町内会便りを発行。交流機会を作っている。(南本町新御殿町内会)</p>	<p>校区全体 小・中 中 校区全体 自 自 自 自</p>

	課題	担い手
②保護者 (PTA)の取 り組み	<p>◇コミュニケーションを大事にしたPTA活動を通し、災害時はお互いに助け合い高学年が活躍できる体制が取れるようにしたい。</p> <p>◇◆小学生と地域の方が顔見知りになれる行事や活動を実施していく。 ⇒◇南中おやじの会を立ち上げた。役割は3世代をつなぐこと。 ⇒◆南小おやじの会と地域の方で、「地域の安全パトロール、地域へ倍返しだ」事業を企画実施。</p>	<p>小PTA</p> <p>校区全体 中おやじの会 小おやじの会</p>
③子ども会存 続の課題	<p>□藤代町子ども会は今年で終わり。どうしたら子ども会に入ってくれるか、夏祭りなどのイベントで地域の方と交流する、お祭りに子どものプログラムを入れる、体育祭で子どもが参加できる種目を多く入れることなどを考えている。今年で最後だが、町内も協力してやっていきたい。</p> <p>□どこの家にどういう子がいるのかわかればアプローチできるが、現在は個人情報保護などで情報を出してもらえず、打てる手がない。</p>	自・子
④環境美化	<p>▲○ゴミの分別をしらないなど市民意識が低い。対策や規制は必要。</p> <p>▲農地への犬のフン害やポイ捨て、ゴミ集積所への他町からの持込みなどへの対応策が知りたい。</p> <p>○市のゴミ関連の予算が1日264万円。この現実を皆に知ってほしい。</p> <p>○温水地のまわりをきれいにするために市の協力がほしい。</p>	<p>校区全体</p> <p>市</p>

■ H26. 10. 06 テーマ①「中学生や保護者が防災訓練に参加しやすい方法を考えよう!!」

(テーマ①班:参加人数 15名)

●地域の防災訓練で期待する中学生の役割●学校の訓練に地域がはいりこむ方法●地域の防災訓練を魅力的にするアイデア●保護者が中学生に誘いかける方法●中学生が直接地域の防災訓練に出られるアイデアなどについて意見を出し合いました。

★中学生の防災訓練への参加には保護者の声かけが必要

- ・保護者が参加/声をかけないと中学生は参加しない
- ・小学生は保護者参加必須
- ・幼小中を巻き込んだ場→MLS誕生
- ・小学生は保護者がいないと参加しない
- ・小学生は訓練に参加する
- ・小学生から防災への興味を持ってもらう
- ・保護者の防災訓練の教育→しっかり考えることを浸透させる
- ・顔見知りになっていても中学生になると参加しなくなる

★中学生の現状は？

- ・中学生は反抗期(親が言ってもだめ?)/扱い難しい
- ・中学生は部活が大事
- ・部活があり日曜は無理
- ・中学生は行事と重なり出席できない
- ・参加証(あっても中学生の参加少ない)
- ・8、9年前強制的に参加指導していた時期があった
- ・社会科の授業の一環→中学生の参加多数
- ・中学生はまだ守ってもらう立場
- ・中学生は自分で自分の身を守る意識が大事

- ・富田町 10 月末防災訓練実施予定
- ・町内会で防災訓練への参加が増えている? どうしているのか?

★学校の訓練に地域の方が参加してほしい

- ・学校では色々な想定のもと、避難訓練実施
- 見て地区の方から意見をいただきたい
- ・学校内での訓練を地区の方に見ていただく

- ・中学校では参加指導しているが、中学生の役割は何?
- ・中学生に何を期待しているのか明確にする

★中学生が地域の訓練に参加するには？

- ・友達を一人連れてくる!
- ・魅力ある給食活動を行う
- ★中学校から中学生への働きかけ
- ・中学校が防災訓練に参加するよう指示する
- ・地域訓練を社会科の授業の延長にしてほしい

★地域の防災訓練の魅力づくり

- 訓練内容の充実
- ・メニューのマンネリ化(毎年同じメニュー)
 - ・メニューのマンネリ化→市で指導してほしい
 - ・炊き出し/火起し→調整(今の中学生はガスと電気だけがエネルギー)
 - ・統一すると大雑把な訓練になるのでは(町内だときめ細やかな訓練可能)

各町内に訓練の伝統がある

- ・町内だときめ細やかな訓練になる
- ・町内会の実情もそれぞれ異なる→それぞれの地域に合った役割を考える(コミュニケーション)
- ・地域の中の意思疎通の場作り
- ・地域のコンセンサスが大事

コーディネーターの役割は？

- ・コーディネーターが学校と地域をつないでほしい

★行政の役割

- ・行政から学校へ参加を指導してほしい
- ・地域安全課で訓練メニューを考えてほしい
- ・行政がもっと前に出て行政・町内会・学校の連携を指導する
- ・行政は地域のシステム作り(任期 2 年にする)
- ・全ての防災委員の任期年数を 2 年以上にする

★防災訓練における中学生の役割とは？

即戦力になる

- ・大人のサポート(補助)参加し学んでもらう
- ・老人が多いので老人の手助け、力仕事
- ・子供たちのリーダー
- ・中学生は力もあるし動きも早いので即戦力
- ・災害時に主要戦力となる→中学生が主役
- ・特に災害発生後は中学生の役割大きい
- ・訓練参加で余裕が出る(消火・トイレの組立・食料の用意・いろいろな場所づくり等)

- ・中学生は力になる
- ・中学生に参加させたい

★訓練日統一

- ・中学生の都合に合わせた日程が大事
- ・部活動の大会以外は調整可能
- ・12月に訓練実施という話は?
- ・昨年、訓練日統一の話題あり

中学生が自ら考える

- ・中学生は体力その他様々な個性がある
- ・何なら出来るのか中学生が考えて行動する
- ・大人目線ではなく中学生目線で考える
- ・防災に対する意識/防災の必要性
- ・企画から意見を取り入れ自主性を高めていく
- ・参加することで役割がわかる
- ・体験が大事

役割を固定する必要はないのでは？

★防災訓練に中学生が参加してほしいという地域の真意とは？

- ・訓練で顔を合わせることが大事
- ・小・中学生に興味・関心を持ってもらう
- ・中学生の参加少ない→地域にとって不安
- ・安全は子供と地域の方が顔見知りになることから
- ・地域全体で子育てする意識を持つ
- ・児童の時期から防災意識を育て、中学生の役割として何を期待しているのか、地域の中ですりあわせをしていく。そのための訓練でもある。
- ・中学生に防災訓練に参加してもらうためには、日程を中学生の都合に合わせてから。

■ H26. 10. 06 テーマ②「防災体制充実のためにも、幼稚園・保育園と地域の連携を高めるには？」

幼稚園・保育園と地域の連携を高める方法について、●日ごろからのコミュニケーションづくり●子どもの見守りを通じた連携●防災活動を通じた連携など意見を出し合いました。

★日ごろからのコミュニケーションづくり★

■まずは園をPR

- ・地域にも園の活動を知ってほしい。
- ・廃品回収、ベルマークなど地域の協力を仰ぎたい。
- ・幼稚園の場所を知ってもらう為にも、お祭り(10/26 開催)などの行事に参加してもらいたい。(のびる幼稚園)

OPTA 活動を知ってもらう「お便り」等の回覧

○お祭(イベント)を一般開放とする。
⇒但し不審者の心配があり、園によっては立入り許可書や名札が必要な場合がある。



■あいさつを交わし合う

- ・やはり1番はあいさつ(子どもも保護者もご近所も)
- ・子どもがあいさつ運動をする。

○園で地域を散歩する時、出会った地域の方に気軽に声をかけたり、挨拶をする。



■地域の方を園にご招待

- ・すぎなの園、佐野学園、三島さくら、南小デイ教室と交流。年間計画あり。(南幼稚園)
- ・月一回幼稚園で遊ぼう会。未就園児と在園児のふれあい。(南幼稚園)
- ・毎週火曜日 10:00~12:00 園庭開放。毎月第4水曜日 15:00~育児相談(青木保育園)
- ・園の行事への招待(お知らせしてもなかなか集まらない…。日程などで折り合いがつかないのか?)

■園から地域に出向く

- ・ご近所へ畑の収穫物を持ってごあいさつを実施(普段のコミュニケーションづくりとして)
- ・地域(各町)の行事(お祭り)等に参加できないか? ⇒地域の行事と日程調整が必要

○園児が外に出る機会を増やす。(老人ホーム訪問、地域行事など)



発展

つながり強化

★子どもの見守りを通じた連携★

- ・老人会の方に散歩する時、「子ども見守り隊」のタスキをかけていただきたい。
- ・子育て支援ボランティアに参加していただく。草取や、畑づくりを実施。(窓口：長寿介護課)



○「子ども見守り隊」のタスキ、子育て支援ボランティアの活動を広める。

★防災活動を通じた連携★

- ・中学校と合同訓練を実施
- ・広域避難所(南中)は遠く、園の中で待機しなければならない。また御殿川の増水時も危険。⇒近くに助けに来てくれる方がいると安心。
- ・地域、ご近所で助け合う仕組みができるとうい。

○地域の防災訓練に園の職員が参加する。(6町合同訓練、地域の防災会議など)



補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

平成 23～26 年度 南小学校区きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	子ども関係
ウスティリア三島青木自治会	環境美化推進員会	私立のびる幼稚園
モナーク三島自治会	民生委員児童委員協議会	私立のびる幼稚園 P T A
玉川自治会	保健委員会	南幼稚園
新谷自治会	消防団第 17 分団	南幼稚園 P T A
青木町内会	中央婦人学級	青木保育園
中田町南自治会	南婦人会	南小学校
中田町北町内会	エコリーダー	南小学校 P T A
南田町町内会	南小学校区体育振興会	南中学校
南本町御殿町内会	交通安全母の会	南中学校 P T A
南本町高台町内会	地域包括支援センター	南中 M L S ・おやじの会
南本町新御殿町内会	地域づくりコーディネーター	
富田町自治会		
平田自治会		
北田町仙台町内会		
北田町町内会		
かわせみ自治会		
中央町自治会		
藤代町町内会		
	老人クラブ	子ども会
	玉川老人会	藤代町子ども会
	中田町南ならはし会	富田町子ども会
	南本町高砂会	南二日町（つくし）子ども会
	北田町寿楽会	南子ども会連合会
	富田町富士見会	玉川子ども会
	新谷ひいらぎ会	

（平成 23 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています）

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.06.09 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
「2 高齢者から子どもまで他世代の交流による活性化」

▲：H23.10.19 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前回の議論を受けて～」
「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.05.24 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.11.12 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.07.18 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

◆：H25.11.11 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

□：H26.05.23 テーマ「防災訓練」「地域の連携」

■：H26.10.06 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。
テーマ「①中学生や保護者が防災訓練に参加しやすい方法を考えよう！」（P6掲載）
「②防災体制充実のためにも、幼稚園・保育園と地域の連携を高めるには？」
（P7掲載）

◎：市の意見・回答

	現況	課題	担い手	結果・実績
1.	防災訓練			
	①訓練内容			
	<p>◇◆防災倉庫の整理・点検を実施した。今まで防災訓練はやっていないので、火災対応などのノウハウがなく身動きがとれない状況。（北田町仙台）</p> <p>◎何人か動けそうな人を集めてもらえれば、危機管理課で体制整備を指導する。</p> <p>◇◆今年のテーマは「みんなで防災、なかよく防災」。炊き出し、仮設トイレ・テントの組み立て、水消火器、一次避難所を拠点としたシミュレーションを実施。二次避難所は自宅が使用できない人が行く場所だという意識付けを行った。（富田町）</p> <p>◇◆各家へ安否確認の用紙を配布。訓練では各集合場所へ集合後、組長が用紙を回収し対策本部に持参する。参加者には非常食を配布。（玉川）</p> <p>◇訓練終了後消防署イベントに参加。住民に色々な防災知識を持ってもらっている。（南田町）</p> <p>◇中田町北と合同訓練実施。（中田町南）</p> <p>◇◆昨年末まで訓練は実施していなかったが、今年中田町南と消火訓練実施。消火器の期限切れが判明し、半分ほど取り替えた。（中田町北）</p> <p>◇◆今年は普段の訓練に加えてAED訓練実施。意識不明者を救助出来るよう住民の意識向上をはかった。毎回120～130人参加。（南本町高台）</p> <p>◆訓練実施の際、マンション内で有り得る災害・防災に関して話し合った。（ウイステリア三島青木）</p> <p>◇訓練は毎年実施。（南本町新御殿）</p> <p>◇人数も少なく高齢化している。地震は30年来ないと誤解している人もいて難しい。（南本町御殿）</p> <p>◇高齢者が多く訓練は実施していない。見守り活動をしながら集合場所を確認している。（北田町）</p>	<p>◇訓練は地域のきずなづくり。なるべく多くの世代が参加できる訓練にしたい。</p> <p>◎「黄色いハンカチ」による安否確認も参考にしてほしい。</p> <p>◆今後はもう少し参加者を集めて炊き出し訓練を実施したい。</p> <p>◎携帯でAEDの設置場所、取り扱い方法が調べられる。活用してほしい。</p> <p>◆今後の課題は高層階からの避難や消火訓練。</p> <p>◇皆を外に連れ出す意味も兼ねて訓練実施を検討中。</p>	<p>市</p> <p>自治会</p> <p>市</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◆一次避難所を拠点としたシミュレーション実施。</p> <p>⇒◇安否確認用紙を使用した訓練や非常食配布などの工夫実施。</p> <p>⇒◇今年から訓練を開始した。</p> <p>⇒◆AED訓練を通じて救命意識の向上を図った。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◆日程や訓練内容に固定観念が多いと感じる。</p> <p>◎現在、マンホールトイレを市内数か所の小学校に設置中。</p>	<p>◆消火器や可搬ポンプを使用しない消火活動や、バケツがない場合に水路からいかに水を運ぶか知恵を絞るバケツリレーなど、実地体験を積むことも必要。</p>	自治会	
<p>◇◆6 町内合同防災訓練を実施。(青木、新谷、ウイステリア三島青木、平田、藤代町、モナーク三島)粉消火、温水地で簡易ポンプの操作訓練、避難所の南中体育館と防災倉庫を見学した。避難所生活の大変さが実感できたと思う。</p> <p>◇町内にある福祉施設も 6 町内合同訓練に参加。参加する過程で課題が出てくる。(新谷)</p> <p>□6 町内合同訓練ではたくさんの方が参加していた。南中学校体育館の見学は、意義のある貴重な体験だった。</p>	<p>◆次年度は暑さや中学生の参加も考慮し 12 月の地域防災の日に訓練を実施するよう引き継ぎたい。</p> <p>◆時期や内容など本当に必要なことをしっかり話し合ってから訓練を実施するべき。</p> <p>□避難所をただ見学するだけではなく、子どもから大人まで色々な役割をもち、本当に避難したような宿泊訓練ができれば、中学生も楽しく参加できると思う。</p> <p>□面白いと思える訓練が、魅力的な訓練になるのではないかな。</p>	6 町内	⇒◆粉消火器や避難所見学等、実地的訓練実施。
<p>◇訓練が可搬ポンプ、三角巾などを使つての恒例行事みたいになっている。(消防団)</p> <p>◆役員が一年交替の町内が多い。慣れてきた頃に防災訓練がある。</p>	<p>◇災害時の初期活動(自助・救助・安否確認など)が大前提。技術よりも行動が大事だと認識してほしい。</p> <p>◆訓練内容を申し送りするような形にすると、新年度の役員が楽になるのではないかな。</p>	校区全体 自治会	
②参加促進のための工夫			
<p>◇高齢化やマンションの住人が多く参加率をあげるは大変。</p> <p>◇プラスワン、お祭り等で知人を連れてきて知り合いを増やすことが訓練参加者の増加に繋がる。(南小)</p> <p>◆イベント時に必ず防災訓練を実施。午前と午後に分ける、15 分程度など参加しやすい工夫する。(ウイステリア三島青木)</p> <p>◇富田町は防災活動が盛ん。防災会役員だけで 50 人以上いる。役員に中・高校生、大学生、老人クラブの方も入っていて色々なアイデアを出す。各班がそれぞれ企画、提案し、防災クイズなど楽しみながら防災訓練が出来る。(富田町)</p> <p>◆238 人参加と世帯数も人口も半分以上参加している。年中行事化していること、避難所が町内にあること、景品の配布が参加要因だと思う。(富田町)</p> <p>□消火器や温水池での放水訓練など小中学生参加をメインに進めていた。子ども達が参加するには、子ども達ができる内容を盛り込むことが必要だと思う。</p>	<p>◇一番の課題はマンネリ化と参加者が限られていること。</p> <p>◇少しでも参加者を増やしたい。(平田、中田町南)</p> <p>◎県の地震防災センターに住民を連れて行ってはどうか。</p> <p>●◇地域でお互いに顔見知りになるよう、積極的に顔を出していく活動が重要。</p> <p>●子どもからお年寄りまで世代間交流がうまくできる方法を考えたい。</p> <p>●みんなが知らないことを上手く発信できるような防災訓練を行っていきたい。</p> <p>□炊き出しなど、被災時に実際に行うことを小さい頃から体験していけば、大人になっても地域皆で行う訓練に参加すると思う。</p>	自治会 自治会 校区全体 自治会 自治会 自治会	⇒◆イベント時に訓練実施。 ⇒◇防災会役員に学生や老人会も入り、楽しみながら訓練を実施。住民の半数以上の参加がある。(富田町)

現況	課題	担い手	結果・実績
③防災体制の強化			
<p>▲●町内の人を集め HUG(避難所運営訓練)を実施。様々な問題点が浮かび上がった。(南田町)</p> <p>●訓練の事前準備として、8月半ばに各組の防災補助委員を集め可搬ポンプ訓練実施。(青木)</p> <p>◇一昨年から防災役員が基本的な救命知識、機械の使用法を勉強し皆に教えている。(南田町)</p> <p>◇防災フェスタと銘打ち、防災の勉強会を開催。(ウイステリア三島青木)</p> <p>◇危機管理課と自主防で HUG を実施。</p> <p>◇「釜石の奇跡」の教授の講座や避難を再現した DVD を視聴。防災教育の大切さを職員も学んだ。今年には岩手県山田町の船越小学校で、実際に子ども達と避難された先生、公務員の話聞く予定。(南幼稚園)</p> <p>◆PTA 活動で 1 年に 1 回消防署で AED 講習受講。(南幼稚園 PTA)</p> <p>◇マンネリ化しないために、去年はスモークハウス、今年は防災講話と少しずつ変化する部分と、毎年同様に行う部分を大切にしている。(南小)</p>	<p>●平和な状況ではなく、最悪な状況を想定した訓練をやってみることが大切。</p> <p>◇緊急処置、心臓マッサージ、AED 等の実習に参加した。防災訓練のときに役立たせたい。(南本町高台)</p> <p>●各町内会で AED 設置場所を把握しておく必要がある。</p> <p>●◇PTA と相談しながら、なるべく早く子ども 1 人 1 食分の非常食を準備したい。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>幼稚園</p> <p>小学校</p>	<p>⇒●町内の人を集め HUG 実施。</p> <p>⇒◇防災役員が救命知識を習得。</p> <p>⇒◇住民の防災勉強会実施。</p> <p>⇒◇職員が防災教育の大切さを学び東北震災の体験を聞く取り組み実施。</p>
<p>●避難所が南小から北高に移ったが、周りに顔見知りがないでショックだった。お互いが顔見知りになるというのは重要。(中央町)</p> <p>◆避難所がいっぱいになってしまった場合、マンションのエントランスを借りる状況も発生しうる。</p>	<p>●町内ごとでルールを決めるのではなく、避難所の使い方など避難所地域で連携して理解し合う必要がある。</p> <p>◆周りの町内からマンションへ連携を呼びかけていくことも必要。</p>	<p>校区全体</p>	
<p>●広域防災で、日大近くの東海道線のレールが地震で落ちないかどうか、橋は大丈夫かという質問があった。</p> <p>●新幹線の乗客の避難場所を JR の研修センターにしてもらったらどうか。</p> <p>◇富田町には南北に通じる道路が 5 本あるが、東西には 1 本もない。防災上困る。小・中学校などに車の通れる箇所を作ってくれないか。(富田町)</p>	<p>◎震災時の脱線防止のため新幹線の線路を二重にしている。揺れると新幹線が止まる仕組みになっている。</p> <p>◎新幹線の乗客の避難所を JR の研修センターにするよう市もお願いをしていきたい。</p> <p>◎基本的には徒歩での避難になる。車での避難は大変危険。小中学校は施錠していないので通行は可能。</p>	<p>市</p> <p>校区全体</p>	
④要援護者の支援			
<p>△5月に高齢者避難のための支援計画をまとめた。</p> <p>●歩道がガタガタで高齢者が避難するときに危ない。(民生委員)</p> <p>◇要援護者は大体把握している。(中田町南)</p> <p>◇災害発生時は組長が集まり要援護者リストと照らし合わせ安否確認をする。情報として持っていないと体が動かない。(民生委員)</p> <p>◆要援護者リストをもらい笛を配布した。敬老祝い金を渡す際に訪問し健康状態を確認している。</p>	<p>△13 名が要援護、うち3名歩行困難で、避難所の南中までどう連れてくるかが課題。</p> <p>●災害時要援護者について支援方法を考えなくてはいけない。今後話し合いの機会を設けたい。(中田町北)</p> <p>●避難しやすいよう道路の整備が必要。</p> <p>◇マンションの方は参加がないので非常に困る。</p> <p>◇高齢者の見守り等を通じてそれぞれの地区にどんな方がいるのか把握してほしい。</p> <p>◆要援護者がどこに住んでいるか確認し、誰が誰をどう助けるかまで話</p>	<p>自治会</p> <p>市</p> <p>自治会 民生委員</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>(南本町高台)</p> <p>◇富田町自主防災会には救出救護班がある。昨年、救護班から要援護者の場所がわからないため地図に印をしたいという話が出た。個人情報保護などの問題で一軒一軒回り了解を得た。(民生委員)</p> <p>◆町内会長・自主防災会会長・民生委員はそれぞれ要援護者リストを持ち自分の地区を確認するようPRしている。各地域でマップ作成の許可をもらっている。(民生委員)</p> <p>◆町内少子化ということで、子どもはわずか。老人は自分では力があると思っても、若い人を頼らざるをえない場面がある。(玉川老人会)</p> <p>□会長になり要援護者リストを受けとったが、「守秘」ということで終わってしまった。</p> <p>□要援護者リストは、4～5月に民生委員が1人暮らしの高齢者・障がい者などを調査し作成している。本人の了承を得ているので、個人情報保護に関しては問題ない。</p> <p>□要援護者の支援者を決めても、災害の発生する時間帯によっては、支援者が不在の場合もある。</p> <p>□要援護者のうち何人かは見守ってくれる方がいるが、年々高齢者も増えていて、支援者を決めても大変になってしまう。</p> <p>□地域包括支援センターに、民生委員から「要援護者の中にも色々問題があり、ご家族で地域に助けを求めている方もいる」と相談を受けることもある。</p> <p>□障がい児には特別な関わり方が必要になる。また成人では作業所などの施設に通っている方が多く、施設の方は施設を避難所とする考えの方が多。災害時、障がい者は通っている施設など慣れた場所で過ごすことが一番いい。</p>	<p>し合ってほしい。民生委員も協力する。</p> <p>◇要援護者の居場所を知ることは必要。</p> <p>◎芙蓉台ではおたすけ隊を作り毎月避難訓練を実施している。参考にしてほしい。</p> <p>◆要援護者をひとりでも見逃さないようマップ作成をお願いしたい。</p> <p>◆高齢者も災害時は頼りになるのは自分だと覚悟しておく必要がある。</p> <p>□これから要援護者をどう支援したらいいか全くわからない。</p> <p>□支援者がいない場合に備え、その次にカバーできる人も決めたいが、非常に難しい。</p> <p>□やはりご近所が皆で助けあう気持ちをもってほしい。</p> <p>□近所とつながりのない世帯について、これからどうしたらいいか地域で話し合っていくかなくてはならない問題だと思う。</p> <p>□要援護者リストを作成する際、「その人がどこの施設に通っているか」「その施設に災害時の対応が相談可能かどうか」などの情報を名簿に書き加えるといいのではないかな。</p> <p>◎市では福祉避難所を設定している。そこにどうい方が集まるかまだ決めていないので、今のご提案を検討していきたい。</p>	<p>自治会 民生委員</p> <p>市</p>	
<p>⑤子どもの参加</p>			
<p>●今年訓練カードを復活させた。カードに証明をもらってきたら参加したことを通信簿などに記録する。(南小)</p> <p>●成績面での優遇はすべきではないと考えている。(南小)</p> <p>◇◆園児・小学生の参加は多いが中・高校生の参加が少ない。災害発生時、助け合いの中心になるのは中学生。中学生は確実に力になる。</p> <p>◆社会福祉協議会による一泊二日の宿泊型避難所体験訓練に参加した。中学生、高校生は頼りになると実感した。</p> <p>◇◆□中学生は部活が中心。大会などがあると訓練に参加したくても部活を優先する。南中では試合・大会を除いて、訓練を優先するよう指導している。(南中)</p>	<p>●◇小学5・6年生は手伝いが出来る。褒められることで参加意欲がわく。</p> <p>◇□中学生に訓練企画案を出させてはどうか。昼夜、災害初期段階など色々なパターンを考えさせ、それに地域の人が寄り添っていく。</p> <p>◆中学生も消火器やポンプの訓練に参加させてほしい。</p> <p>◆町内でも中学生・高校生の指導を実施してほしい。</p> <p>●◇◆防災訓練が市内一斉同日開催ならば、中学生全員が参加できるのではないかな。多くの町内が12月はじめに訓練を実施してくれれば全面的に協力可能。ぜひ話し合してほしい。</p>	<p>小学校</p> <p>自治会 小学生</p> <p>自治会 中学生</p> <p>自治会 中学生 高校生</p> <p>校区全体</p>	<p>⇒●南小の訓練カード復活。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>□12月に一斉に訓練をやって頂ければ、中学校で全面的にバックアップできる。</p> <p>◆訓練日を知らせてもらえれば担任から子ども達へ参加呼びかけができる。(南小)</p> <p>□中学生の参加率を上げるのは簡単なようで難しい。中学生は関心がなく大人任せで、自分たちは関係ないと思っている。</p> <p>□賛否あると思うが、部活動は大会は別として訓練日くらい休めると思う。部活動があるから参加しないというのは言い訳。</p> <p>□中学生の子どもに、訓練参加証を学校に提出するとどんなメリットがあるのか質問された。(南中では、参加証は夏休み前後の年2回発行。訓練参加者は、通知表と高校入試の調査票に記入)</p>	<p>◆中学生の参加が園児・小学生の参加につながる。できれば南中と日程を揃えてほしい。</p> <p>□中学生に興味を持たせるのが一番。できれば保護者も一緒に参加するといい。</p> <p>□根本はどう参加意識を高めるか。学校や家庭がバックアップしていかないと難しい。</p> <p>□学校で訓練参加のメリットをはっきりさせてくれると、子ども達も参加するのではないかと。</p>	<p>中学校</p>	
⑥地域と学校の連携			
<p>◇南幼稚園と南小と南中が連携し、合同引渡し訓練実施。</p> <p>◇南幼稚園から南中学生徒会に依頼し、南中MLSと防犯訓練を計画。昨年度は20～30人の生徒が参加。日々の交流がある。地区の防災会議にも参加。二次避難場所として体育館の中の音楽室を使用した。(南幼稚園)</p> <p>□最近、中学生が幼・保で職業体験をする学習が行われている。</p> <p>◆色々な地域から子ども達が来ていて地域の連携は難しい。数年前から近所のお年寄りをイベントに招待し少しずつ連携ができていく。(私立のびる幼稚園)</p> <p>◆園舎は耐震補強し安全だと思うが、状況によっては南中に避難する。(青木保育園)</p>	<p>◇幼小中の連携、地域の人とのつながりを大切にしていきたい。</p> <p>□訓練に幼児連れの家族が参加していたら、中学生が幼児の面倒を見てあげて、その間に保護者が訓練に参加するよう、お手伝いできる。避難してくる時に、お年寄りと一緒に歩くこともできるのではないかと。</p> <p>◆地区のお年寄り・車椅子利用者などの受け入れを考えていきたい。</p> <p>◆防災面では地域と連携できていないことが課題。</p>	<p>幼稚園 小学校 中学校</p> <p>中学生</p> <p>幼稚園</p> <p>保育園</p>	<p>⇒◇幼小中合同引き渡し訓練実施。</p>

	現況	課題	担い手	結果・実績
2. 地域の連携				
①顔の見える関係づくり				
	<p>○PTA 等で若い世代が卒業してしまい、情報が途切れてしまう。(中央町)</p> <p>○子ども、孫がいる人は学校に入りやすいが、それ以外の方は入りづらいので学校の活動が伝わらない。(南小)</p> <p>○昨年の調査で毎月挨拶運動を地域の方が自分でやってくれていたことを知った。(南中)</p> <p>◆敬老会も子ども会もない。南小学区の運動会があったが、エントリーは半分以下ときみしい状況。(中田町北)</p> <p>◇◆隣の住民を知らない状況なので、大人も子どもも参加できる七夕祭り、クリスマス会等イベント実施から始めた。イベント時はボランティアを募集。抽選会では大人も楽しめる景品を用意した。(ウイステリア三島青木)</p> <p>□自治会の役員を経験し、マンションの方との交流がかなり深まった。昨年 10 月、個人的にハロウィンパーティー実施。子どもが仮装しお菓子をもらいに各家庭を回るので、子どものいない世帯にもお菓子を渡すようお願いしたところ、快く引き受けて頂いた。大多数の子どもが参加し、子どもたちも楽しんでくれた。住民からの苦情もなく、世代を超えた交流ができた。今年度は自治会主体でハロウィンパーティーを実施することになった。(ウイステリア三島青木)</p> <p>□マンション住民の参加が非常に難しい。子どもも少なく、お年寄りが増えている。昨年から高齢者を対象に「おしゃべりと歌声の会」を開催。2010 年 4 月から町内会便りを月 2 回のペースで発行。必ず子どもから大人まで町内の方が書いた文章を入れ、どこにどんな方がいるか分かるよう活動している。(南本町新御殿町内会)</p> <p>□地域包括支援センターでは「地域安全サポーター養成講座」を開催。各自治会の協力を得ながら、サロンの立ち上げ支援を行なっている。内容は運動、おしゃべり、お茶会など。</p>	<p>△○退職した学校の先生等、地域に埋もれた人材を活用したい。</p> <p>○生徒の発表会などに色々な人に参加してもらいたい。(南小)</p> <p>○地域活動を行っている人を講師として学校に招待したい。</p> <p>○これからは学校が率先して挨拶運動を行っていききたい。</p> <p>○中学生も地域の活動に積極的に参加させていきたい。</p> <p>◆人とのつながり、コミュニケーションを大切にしていきたい。</p> <p>○年寄りが集まれる場所を作ってほしい。(青木)</p> <p>◇住民のコミュニケーション、きずなづくりが大事。</p>	<p>校区全体</p> <p>小学校</p> <p>小学校 中学校</p> <p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>地域包括 支援センター</p>	<p>⇒◇◆マンション内できずなづくりの取り組み実施。</p> <p>⇒□イベントを通し、世代を超えた交流がマンション内で広がった。</p> <p>⇒□自治会内で高齢者対象に「おしゃべりと歌声の会」や、町内会便りを発行。</p>
②保護者 (PTA) の取り組み				
	<p>●MLS「南ライフセーバーズ」(平成 16 年頃に発足)は元々生徒会が中心となって立ち上げた組織。今年再募集をかけたところ、保護者と地域の方数名の応募があった。今年から PTA で運営している。(南中 PTA)</p> <p>◇見守りで子ども達は安心して通学出来ている。地域の方の目が増えるのは防犯・防災の面で大きな効果。(南中 MLS・おやじの会)</p> <p>◇南小おやじの会は今年 11 年目。小学生と地域の方が顔見知りになるようイベントや活動を実施。(南小 PTA)</p>	<p>◇2 月に南中におやじの会を立ち上げた。3 世代をつなぎ、地域の人と顔見知りになることが大事。</p> <p>◇コミュニケーションを大事にした PTA 活動を行い、災害時はお互いに助け合い高学年が活躍できる体制が取れるようにしたい。</p>	<p>中 PTA</p> <p>中おやじの会</p> <p>小 PTA 小おやじの会</p>	<p>⇒◇南中おやじの会を立ち上げた。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◆地域の方とおやじの会で「地域の安全パトロール、地域へ倍返しだ」事業を企画。カーブミラーの清掃や止まれシールの貼り付け、危険個所の確認作業を実施。</p> <p>◆地域の訓練やイベントで子ども達と交流し、南小も地域の人を呼ぶ事業を行なっている。(南小PTA)</p>	<p>◆小学生と地域の方が顔見知りになるようイベントや活動を実施していきたい。</p>		<p>⇒◆南小おやじの会と地域の方で、地域の安全確認作業実施。</p>
③子ども会存続の課題			
<p>□藤代町子ども会は今年で終わり。入る子どもが少なくなっていて、来年は子ども会を維持できなくなってしまう。</p> <p>□昨年、藤代町町内会として子ども会のことにもっと力を入れるべきだったと思う。</p> <p>□特別支援学校に通っている長男がいる。次男が子ども会に入ること、地域の方に長男のことを知ってもらっている。子どもが地域の中に入るとは大事なことだとわかっているし、子ども会は残したいが難しい。</p>	<p>□どうしたら子ども会に入ってくれるか、夏祭りなどのイベントで地域の方と交流する、お祭りに子どものプログラムを入れる、体育祭で子どもが参加できる種目を多く入れることなどを考えている。今年で最後だが、町内も協力してやっていきたい。</p> <p>□どこの家にどういう子がいるのかわかればアプローチできるが、現在は個人情報保護などで情報を出してもらえず、打てる手がない。</p>	<p>自治会 子ども会</p>	
④環境美化			
<p>▲燃えるゴミの中にビン・缶が多く入っている。環境美化委員が取り出して、自分のところで洗って出しているのが現状。</p> <p>▲農地が多く、フン害やポイ捨てなどに困っている。(玉川)</p> <p>▲○他町から集積所へ車でゴミを捨てに来る人がいる。</p> <p>○ゴミの集積所に他町からの持込みがある。市からゴミの持ち込みに関する資料をもらったので、回覧して検討する。(南田町)</p> <p>○川のゴミひろいを行っている。(環境美化推進委員)</p>	<p>▲ゴミの分別をしないなど住民意識が低い。対策を知りたい。</p> <p>▲犬のフン害やポイ捨てに効果的な対策を知りたい。</p> <p>○ゴミの回収のやり方が三島市は甘い。規制は必要。</p> <p>○三島市はゴミ関連で1日264万円の予算を使っているという現実を知ってほしい。</p> <p>○温水地のまわりをきれいにするために市の協力がほしい。</p> <p>○タバコのポイ捨てなどが多いので市の広報に載せてほしい</p>	<p>校区全体 市</p>	